

# 29年度 見附市教育センター 第3回 4時から夢塾



**日 時** : 平成29年6月9日(金)16:00～16:45

**会 場** : 見附市役所 大会議室

**テーマ** : 「理科学習」の充実に向けてパートⅡ

「理科学習」の充実に向けて、具体的な事例を通しながら、演習を行い、「新学習指導要領」で目指している指導の在り方についての講義を行いました。演習では、課題に対して参会者一人一人が自分の考えを基に、交流を行いました。講義では「主体的・対話的で深い学び」を実現する理科学習をどのように進めていくのかを学びました。

**講 師** : 信江 弘一 様(県立教育センター指導主事)



### (1) 演習（「噴水の取扱説明書」を使って）

「噴水の取扱説明書」を用いて噴水の設計図と組み立て手順を提示しました。その説明書には噴水の原理として、なぜ水が吹き出るのが記してあるのですが、その部分が黒く汚れて見えません。「さあ、この汚れている部分の説明を一人一人でお考えしよう」という課題が出されました。個の学習、グループでの検討会が行われました。

### (2) 講義（これからの児童生徒のために！「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて）

#### ◎授業を変えるためのポイント

- ①「受身・個別」から「探究で協同的な思考・発展型の授業」に変えていくイメージをもつ。
- ②「教師中心」から「学習者中心（好き勝手な放任主義でない）」へ転換する。
- ③「教師中心のよい指導方法（大切にされてきた指導法）」は「継承」する。

#### ◎授業設計の具体

- ①1時間単位の「導入→展開→まとめ」の学習活動中心の指導案から、評価規準を明確にした指導と評価の一体化した指導案へ
- ②「つきたい力→評価規準→評価方法→学習活動→教材」教材至上主義からの転換

#### ◎「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

- ①課題の工夫 ②生徒の思考を中心とした授業展開（思考ツール・振り返り）
- ③学び合いの環境（モデル、視覚化、学びのUDL化）→日々の授業改善に向けた取組  
→主体的・対話的で深い学びの実現

#### ◎課題設定の工夫（「わくわくする」「解決したい」という気持ちになる課題とは）

- ①児童・生徒が「あれ？」「なんで？」といった疑問をもつ課題
- ②児童・生徒が「こんなものつくってみたい」「どうしたらあのようになるのか」という憧れや可能性をもつ課題

#### ◎「自発的・能動的に学び始める課題設定」の場面（教材提示）

- 教師が意図的に働きかけることが重要である。（以下のようにして課題を設定する。）
- ①驚きの事実を印象的に提示し、必要感を高めて設定する。
  - ②違和感を生じるように資料を提示し、設定する。
  - ③体験での感覚とのずれや矛盾を強調し、設定する。

#### ◎生徒の思考を中心とした授業展開（思考ツール・振り返り）

##### ○思考ツール（収集した情報を再構成し、関係や傾向を明らかにするためのフレーム）

- ①情報の可視化（思考ツールを使うと処理する情報と情報処理の方向と成果物がよく見える）
- ②情報の操作化（目の前の情報が、自由自在に動いたり、書き直したりして操作できる）

→探究的・協同的に学び合う学習活動

##### ○振り返り・・・▲理解の浅い児童生徒は「知識陳述型」の振り返り

◎理解の深い児童生徒は「知識構成型」の振り返り

→振り返りは、学習内容の確実な定着を促し、自主的に学ぶ態度を育む。メタ認知

**<参加者の声>** ○導入に引き込まれました。これまでは教材の工夫や発問の工夫ばかりにとらわれていました。「つきたい力⇒評価規準⇒評価方法⇒学習活動⇒教材」を意識していきます。つきたい力を明確にし、授業を構想するようにし、子どもがわくわくする、解決したいという気持ちになる授業をつくっていきたいです。